



子育てチャンネル

「できない」からこそ「できる」喜びを

これまで数々の人と接し、『個』育て経験はありますが、独身のため子育て経験はありません(笑)。代わりに私を育てた親の話をします。

実家は小樽市内の商店です。年中無休で朝から晩まで忙しい毎日。家族旅行なんて行ったこともありません。それでも両親は時間をみつけては、いろいろな経験をさせてくれました。

補助付き自転車一人旅

ある日、4歳の私は突然こう言いました。「やすお君の家に引っ越くる」と。やすお君の家はすぐ近くではなく、15キロメートルも離れていました。親は店なので一緒に行けません。「どうやって行くの?」と聞かれ、小さい吾郎少年は「自転車で行く!」。地図を書いてもらい、いざ出発! 意気揚々とペダルを漕ぎ始めました。かなりの時間がかかったそうですが、なんとか到着。一人で来たことを、何度も何度も興奮気味にやすお君に伝えていたそうです。

後日談ですが、両親は私の出発後、店をパートさんに任せ、バイクにまたがって私を追いかけ見守ってくれていたそうです。

普通なら「我慢しない」で終わってしまいそうですが、行かせてしまうあたりが笹谷家スタイル。「自分で言い出したんだから最後までやりな」と表向きは突き放し、でもしっかりと吾郎少年を見守り成功させてくれました。

おまけに自転車姿もたくさん写真に残してくれました。

家族強歩

小学5年生になると「小樽一札幌」間36キロメートルを歩きました。夜中の10時に自宅を出発し、朝の10時に到着しました。途中、トンネルを逆走する暴走族に遭遇したり、疲れて泣いたり、ご褒美のハンバーガーショップでは、堂々とドライブスルーで注

文していた親父の姿が今も目に浮かびます。

その日以来、夜中の強歩はできれば避けたい笹谷家の年中行事の一つになりました。時が経ち、同じ道を通るたびに、あの日の経験がどれだけ貴重なものだったのか、今になってじわじわ心に染みてきます。

背中を押す手の温もり



子どものことを案ずる親の気持ち。持ちは、子どもの背中を押してくれます。温かい親の手となっていくまでも一人の人間を応援し、支えてくれます。今すぐなのか、遠い将来なのかは別に、それはいずれ子ども自身がはっきりと気づきます。

私の親は、「できない」ではなく、どうしたら「できる」のか、それを教え、導き、喜びへと

と変えてくれました。仮に失敗したとしても、その時だけの単なる体験で終わらせることなく、次に繋がる経験のために、陰ながら支えてくれていました。

この特別支援学校でも、子どもたちはさまざまな理由を言っている。「できない」「まま途中でやめてしまうことがたくさんあります。そのすべてを「できる」に変えることは難しいですが、できないからこそ、どうしたらできるのか、その子の強みやアイデア、周囲の協力を得て「できる」喜びへと繋げてあげたいと思っています。

今は学校でみんなの『個』育てに奮闘中ですが、これから自分たちが育てる立場になったら、子どもに「できない」ではなく「できる喜び」をいっぱい持てるようにしてあげたい。そして、いつまでも消えない「温かい手」として子育てできたいと思います。改めて両親に伝えたい言葉があります。「育ててくれてありがとう」と。

東川養護学校小学部

笹谷 吾郎